

豊かで幸せな人生 100 年時代に向けた、恋愛の役割はなにか：

恋愛格差社会における支援の未来形

成蹊大学 小林盾

本報告では、豊かで幸せな社会の実現のために、恋愛の役割はなにかを検討します。ただし、恋愛・結婚・出産はあくまで個人の自由であり、決して押しつけてはいけないことが、前提となります。

分析では内閣府「人生 100 年時代における結婚・仕事・収入に関する調査」などのデータを用いて、男女別に 2 変数の関連を調べていきました。恋愛経験は、中学卒業から初婚（未婚なら現在）までの恋人人数で測定されます。恋人人数の帰結を分析したところ、男女とも恋人が多いほど、おおむね幸せとなるチャンス、結婚チャンスが増え、貧困チャンスが減りました。とくに、0 人から 1 人で変化が大きいことが分かります。したがって、恋愛は幸せのエンジンの一つといえそうです。

恋人人数の規定要因を分析したところ、若さが女性で恋人人数を増やしましたが、男性では減りました。高い教育は恋人人数を減らし、高い容姿レベルと収入レベルは恋人人数を増やしました。これらから、グループによって人びとの恋愛チャンスに偏りがあり、いわば恋愛格差があることが分かりました。

そこで、恋愛格差解消の一つの方法として、恋愛支援を提案しました。支援というからには対象は希望者のみで、決して強制とはできません。支援を「受けない自由」もあります。また、恋愛はハラスメントと結びつきやすいため、ハラスメントの加害者にも、被害者にもならないよう、ハラスメント防止の対策が不可欠です。

ゼロからのスタートは難しいので、すでに行われているものに組みこむほうがスムーズでしょう。例えば、各地で行われている結婚支援事業に、恋愛支援を組みこむことが考えられます。これらの結婚支援事業でも、印象改善のアドバイスなどが行われています。

また、すでにハラスメント防止教育で、デート DV などのリスクが伝えられています。そこに組みこむこともできるでしょう。壁ドン、告白、プロポーズなどを模擬体験することで、これらにハラスメントのリスクがありうることを考えます。壁ドンは身体接触を伴いませんが、ハラスメントとして容易に理解されやすいことでしょう。ルッキズムとなりうるような言動についても、ハラスメントリスクのある事例として扱ってほしいところです。

なお、これらは社会全体の課題です。そのため、民間、NPO、地方自治体などが主体となり、国には「支援の支援」を行うことが期待されます。学校だけでなく、職場、地域でもハラスメント防止教育は行えるはずです。また、恋愛支援の目的は幸せな人が増えることであって、結婚や出産であってはいけません。

我われが目指すべきは、恋愛・結婚・出産「する人」も「しない人」も、等しく幸せな社会であるべきです。本報告では、そのための一つの考え方を提示しました。